

ンは「1. 概念, データ, 指標」, 「2. 家庭環境」, 「3. 社会・経済・文化的脈絡」, 「4. 制度的脈絡」, 「5. 子供の健康と福祉」, 「6. 子供の教育と労働」, 「7. 制度的脈絡」の7つに分かれ, 報告数が多いセッションは, 2つの部屋に分かれて同時並行的に行われた。

参加者はフランス, ベルギー, カナダ(ケベック州)等の欧米諸国とセネガルをはじめとするフランス語圏アフリカ諸国を中心とする約140名であった。日本人参加者も JICA によりコンサルタントとしてセネガル共和国厚生省に派遣されている(株)リンツの林玲子氏, モントリオール大学人口学の大学院生で日本政府により UNFPA のセネガル事務所に派遣されている大橋慶太氏を合わせると3名となり, 少ないとは言えなかった。大橋氏は第3セッションで同僚のセネガル人 Soukeynatou FALL 博士との共著で「サヘル諸国における貧困と子供の状態」(Pauvrete et situation des enfants dans les pays du Sahel)と題された報告をされ, 小生は第5セッションで「アジア諸国における母子保健の環境関連規定要因」(Determinants environnementaux de la sante infantile et maternelle dans les pays asiatiques)と題された報告をアジア諸国の人口保健調査(DHS)データのロジット分析に基づいて行った。小生にとっては初めてのフランス語での学会報告であったが, パワーポイントのおかげでなんとか無事に終えることができた。(小島 宏記)

韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究

本研究は, 厚生労働科学研究費による政策調査推進事業であり, NIES 諸国における少子化の動向と少子化対策を分析し, わが国にとっての政策的示唆を得ることを目的としたプロジェクトである。研究活動の一環として, 2002年11月19日には韓国, シンガポールから2名の研究者を招聘し, 各国の少子化および少子化対策等に関するワークショップを本研究所にて開催した。

Mini-Workshop on Low Fertility in Asia: Cases of Singapore and Korea

"Low Fertility and Policy Responses in Asia - Case of Singapore": Mui-Teng YAP (Senior Research Fellow, Institute of Policy Studies, Singapore)

"Low Fertility and Policy Responses in Asia - Case of Korea": Kyung Sup CHANG (Professor of Sociology, Seoul National University)

2003年3月17日には, 香港, 台湾, 韓国から各1名の研究者の方を招聘し, 各国/地域の現状に関する研究発表および討論を行った。

Mini-Workshop on Low Fertility in Asia: Cases of Korea, Taiwan and Hong Kong

"Low Fertility in Korea" Ki-Soo EUN (Associate Professor, Academy of Korean Studies)

"Low Fertility in Taiwan"

Ming-Cheng CHANG (Former Director, Taiwan Provincial Institute of Family Planning)

"Low Fertility in Hong Kong"

Edward Jow-Ching TU (Professor, Hong Kong University of Science and Technology)

発表された論文は, 平成14年度総括研究報告書『韓国・台湾・シンガポール等における少子化と少子化対策に関する比較研究』の中にまとめられている。

くしくもワークショップ直後に SARS による死者が発覚し, 香港, 台湾, シンガポール等への渡航自粛勧告が出されたがスケジュールに影響はなかった。(佐々井司記)